

2022年
No.97
9月1日発行

国際こだいら



KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION (KIFA)



- 多文化共生をかんがえる
- 「つなひろ」を使った初心者日本語クラスの開講に向けて
- 外国人インタビュー ウズベキスタン ほか



令和4年度社員総会

令和4年5月21日(土)

今年4月に発足した、「一般社団法人 小平市国際交流協会（以下、協会という）」の社員総会が開催されました。安部泰人理事長の挨拶から始まり、参加者の自己紹介、社員の定足数の報告、議長の選出と続きます。事務局による令和3年度の事業報告の後、採決に入りました。協会の定款、理事・監事の選任、令和4年度事業計画及び収支予算書の説明、質疑があり、いずれも承認されました。

質疑の中では、承認手続きについて提案がありました。「賛成、反対、棄権の3種類で承認確認した方がよい」との意見があり、その提案に基づく承認手続きとなりました。

また社員総会の資料が開催直前に届いたこともあり、各ボランティアグループの幹事（社員）がグループのメンバー（会員）の意向を反映できていないとの指摘もありました。次回以降は余裕を持って資料を送り、会員の意見を吸いあげる工夫をするなどの改善が求められます。

社員総会の後は、設立記念式典がありました。理事

長挨拶の後、小林洋子小平市長、松岡篤小平市議会議長の来賓挨拶があり、記念講演が開催されました。講演者は、白梅学園短期大学名誉教授の瀧口優先生です。先生は、長年にわたり、子ども学科及び保育科で教鞭をとられ、現在はライフワークである多文化共生の活動を続けられています。

講演の内容は、2021年に瀧口先生が行った外国籍住民意識調査から「小平市の多文化共生を考える」でした。調査の標本数は87でしたが、外国籍住民からの貴重な生の声です。日本の生活で困っていることは、第一にことば、第二に友人が少ないでした。また、日本人との付き合いは、第一に挨拶をする程度、第二に全く付き合いがないという結果で、外国籍住民が地域に溶け込めていない状況が判るものでした。このような調査結果も踏まえながら、協会の事業を考えていく必要があるかもしれません。

一般社団法人として発足した協会は、構成する会員（ボランティア）が中心となって活動していくこととなります。各々の自覚と取組みが期待されます。



新理事寄稿

一般社団法人小平市国際交流協会の理事に就任された12名のうち3名の方に、理事として取り組んでいきたいこと等について、思いを寄せてもらいました。

一般社団法人小平市国際交流協会の理事として

副理事長 たぐちまさる 瀧口優（白梅学園短期大学名誉教授）



4月よりKIFAが一般社団法人としてスタートしました。その理事の一人としてKIFAにかかわることを重く受け止めています。この6年間白梅学園短期大学の代表としてKIFAの評議員を引き受けてきましたが、1年に2回評議員会に参加して、方針や予算、決算の確認をするのが主でした。2年前に評議員や理事、ボランティア幹事の声を受けてKIFAの運営検討小委員会を月1回開催し、法人化にたどり着きました。そこで出ていたキーワードが『多文化共生』です。

新生KIFAの柱は多文化共生です。理事としてやらなければならないことは、この多文化共生を一步でも二歩でも前進させることです。多文化共生は日本の文化を押し

し付けるのではなく、お互いの文化を尊重することであり、「ことば」はその中心です。個人の活動として小川西町公民館で日本語支援の活動をしていますが、その中で感じるのは、母語（中国人ならば中国語、ベトナム人ならばベトナム語等）の重要性です。特に子どもたちは将来母国に帰ることもあります。その時に母語がきちんとしていなければ、自分の国で生きることさえできなくなってしまいます。まだ小平では母語の支援までできていませんが、1月に出された文部科学省の中央教育審議会答申では明確にこのことを提起しています。

いろいろな文化に出会うことは楽しいことです。相手の文化をお互いに尊重することが多文化共生につながります。小平が多文化共生のまちとなるように、KIFAの一人として力を尽くしていきたいと思います。多くの皆さんがこうした動きに参加・参画していくことが、お互いのつながりを失いつつある日本社会の再生につながっていくと考えています。

小さな一歩をつなげるように

理事 みやまじゅんぺい 三代純平（武蔵野美術大学教授 日本語教育学）



この度、一般社団法人小平市国際交流協会の理事となりました。どうぞよろしくお願いいたします。先日、私が大学で担当する「多文化共生論」という講義で、事務局の方々にゲストスピーカーとして、小平に住む外国人の現状などについて話していただきました。話を聞いた学生たちの多くは、自分も「多文化共生」のために何かしたいと思う一方、自分に何ができるのかわからないと言っていました。たしかに「多文化共生」というと大きな理想のように聞こえ、多文化共生社会をつく

るといって、政治家にでもならないと何もできないと感じてしまうのかもしれない。

しかし、多文化共生の出発は、目の前の他者とちゃんと向き合うことだと私は考えています。国籍や文化を越えて、まずは、目の前にいる人と話してみる、何か一緒にやってみる。その小さな経験の積み重ねが、やがて「多文化共生」と呼べる社会へとつながっていくのだと思います。

そんな小さな経験を生み出すきっかけを一つでも多くつくりたい。何かしたいけどどうしたらいいかという学生のような人たちの、最初の一步を応援したい。そして、その一步一步をつなぎ合わせて、小平市に多文化共生という大きな道を築くことに貢献したい。そのように考えております。

新しいKIFAへの期待

理事 ながさわゆうじろう 長澤雄二郎（行政書士 東京都行政書士会多摩中央支部理事）



私は外国人の在留資格の手続きを専門業務とした行政書士として、外国人登録証から在留カードへの切り替わりなど、日本の出入国在留管理行政の変遷を長年追いかけてまいりました。在留外国人は今後も増加が見込まれており、外国人との共生社会の実現に向けた環境整備や仕組み作りが、より一層重要な時代に入ってきたと実感しております。歴史あるKIFAですが、然るべきタイミングで「法人化」という新たな節目を迎えられたと思っております。

日本政府も今年、外国人との共生社会の実現に向けた中長期的な計画（ロードマップ）を示しました。そして

目指すべき社会の「3つのビジョン」を掲げております。ビジョンの説明の中には『外国人との共生社会の実現は、外国人のためだけのものではなく、我が国全ての人、企業、地域、ひいては社会全体の成長を促すものとして捉えていく必要がある』という一文があるのですが、これは今までKIFAとは関わってこなかった皆様とも共有したい考えになります。「交流」にとどまらず、日本語学習や生活支援の拡充を目指していこうとするKIFAの新体制は、地域の活性化にも繋がります。行政とも連携できるその役割は非常に大きいものと期待しております。

また、今後は学生・若者が多い小平市の特徴を活かし、より幅広い年齢層のボランティア同士の交流の機会を増やしていけることを願っております。理事の一員として、この地域の行政書士の一人として、KIFAの事業を通じ、何かお役に立ちたいと考えておりますので、活用していただけたら幸いです。



多文化共生をかんがえる

KIFA 会員と利用者へインタビューしてみました。

<日本語会話教室ボランティアTさん> 15年にわたる活動で、学習者の多くが日本で働き、結婚し、子育てする生活者へと変わってきたのを見てきました。単に言語を教えるだけではなく、日本文化や地域の生活情報なども伝えていくことが、ますます必要になってきていると実感しています。

<こども日本語・学習支援教室のIさん> 若いころから様々なボランティア活動に関わってきました。支援を必要とする人はそれぞれ異なる生活環境に生きています。日本人対外国人という構図で見るのではなく、一人ひとりへの丁寧な対応が大切です。

<中国人留学生のTさん> スペインで大学を卒業し日本の大学院で日本語教育を専攻。就職も日本でします。異文化をすべて理解するのは不可能でも、その価値を認める (Respect する) ことが大切です。これからも外国人材を必要としていく日本社会は、多文化共生へと変わっていくだろうと思っています。

<保育ボランティアのSさん> 海外でのビジネス経験もあります。多文化が共存しているだけでは共生とはいえません。多文化共生は異文化をうけいれる側の考え方を変えていくということではないかと考えています。

<生活情報提供チームのNさん>

> 多文化共生とは「日本人と外国人が互いにうまくお付き合いをしていくこと」です。自分のキャリアでもある英語が活かせないかと KIFA に参加したのですが、いま日本にいる外国人の多くは英語が通じない現実を知り、いろんな国の人たちの「共通語としてのやさしい日本語」の重要性を感じています。

<多文化カフェ参加者Iさん> 台湾からの交換留学生です。3か月の留学生活の間、日本人との交流がほとんどありませんでした。留学生と一般学生の間に分断を感じました。逆に、多文化カフェのような外国人と日本人が自由に話し合える場の大切さを感じました。

<インドネシア人Sさん> 500種類以上の言語と300を超える民族が共存するインドネシアでは、多文化という状況は時に軋轢や紛争を生む原因になりますが、若い世代はこの状況をよりよい社会変革への活力 (dynamism) と捉えています。



久しぶりの多文化カフェ

『つながるひろがるにほんごでの暮らし』を使った初心者日本語クラスの開講に向けて

取材日：6月9日 (木)

「生活者としての外国人」のために文化庁が開発し、令和2年から提供している学習サイト『つながるひろがるにほんごでの暮らし (TSUNAHIRO)』は、パソコンやスマホなどを使って、生活のための日本語を独学で学べます。自分に合ったレベルを選択し、生活の場面を再現した動画や、文型説明動画などで学習します。16言語に対応していて、日本語、ローマ字、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、インドネシア語、フィリピン語、ネパール語、クメール (カンボジア) 語、韓国語、タイ語、ミャンマー語、モンゴル語、ロシア語、ウクライナ語で字幕を選ぶことができます。

この「つなひろ」を使った日本語教室の9月開講を目



スーパーの店員とのやり取りの練習

指して、4回のトライアル授業を行っています。日本語教師の資格を持った4人のボランティアが1回ずつ担当し、進行方法を考えて授業を進めます。9月からは、このトライアル授業の状況を踏まえて、精査した内容で開講する予定です。

取材した日は、トライアル授業2回目でした。今回のテーマはスーパーマーケットでの買い物だったので、エコバッグの中身を取り出すところから、授業が始まりました。牛乳、水、クッキーなど、よく買うものの名前を皆で覚えた後、スクリーンに映した TSUNAHIRO 動画を観ながら「すみません。牛乳はどこですか。」などのセリフを繰り返し練習します。受講生は中国出身の2名とアメリカ出身の1名で、各々にボランティアが一人付き、スーパーのエプロンや買い物かごを使って何度も練習しました。また、教材には載っていない応用編として、『あれ』『これ』『それ』の違いについても学びましたが、日本語を初めて学ぶ人には難しいようでした。

1時間半の授業の後は、反省会です。動画を流すときに、手元のスマホで翻訳を見ながら理解してもらい、何度も会話を聞いて言う練習をする、TSUNAHIRO に沿って進めるが難しい場合は少し端折る、時間が余った場合にも用意して臨機応変に進めるなど、活発に意見交換されました。

受講生は皆、真剣に取り組んでいました。初心者から楽しく通い続けられる教室にするため、まだまだ模索は続きます。

KIFA 外国人利用者 インタビュー

取材日：5月26日(木)

ウズベキスタン出身のオモノフ・アジズさんにお話をうかがいました。アジズさんは、昨年12月に開催された第7回小平市日本語発表会に参加されています。東京農工大学の博士課程で、水資源や土壌の研究をしています。

日本には留学で何回か訪れたことがあるそうですが、韓国にも留学していたので、韓国語も日本語と同様少し喋ることができます。昨年小平へ引っ越してきて、小平国際学生宿舎(ISDAK)で家族とともに住んでいます。母国で政府関係の仕事をしていたときに、国際協力機構(JICA)やアジア開発銀行(ADB)のプロジェクトに携わることがあり、日本人や文化に触れて興味を持ったのが来日したきっかけです。



日々研究や論文に追われるなか、子どもの保育園の送迎や通院などの育児で忙しくしています。小学1年生と5歳になる男の子が2人いて、小学校に提出する書類の多さが大変だそうです。普段はなるべく日本語を話すようにしていますが、意思疎通が難しい場合

これからの行事予定

- ◎「TSUNAHIRO」初心者日本語教室 9月8日スタート 毎週木曜日
- ◎多文化カフェ 10月2日(日)
- ◎多文化理解講座 in English 10月 土曜日(全3回)
- ◎日本語能力試験(JLPT)対策講座 10月～11月 土曜日(全5回)
- ◎こだいら国際交流フェスティバル(名称未定) 11月27日(日)
- ◎小平市日本語発表会 12月11日(日)

※新型コロナウイルスの感染状況により変更となることがあります。
詳しくは、KIFAミニレターまたはHPをご覧ください。

は、スマートフォンの翻訳アプリを見せてやりとりをしたり、友達に助けてもらいます。

日本では、就学前から健康診断や説明会が開催されるため、2月にKIFAで開催された「にほんごプレスクール」に親子で参加しました。そこで、小学校での過ごし方を学び、とても役に立ったそうです。

アジズさんは、週1回KIFAの日本語会話教室に通っており、日本語能力試験を受ける予定です。博士課程を修了後は、母国へ戻るか日本で就職するかまだ検討中です。母国へ戻ればより良い仕事に就けますが、子ども達が日本語や日本文化に慣れてきているため、母国へ戻ってそれらを忘れるのはもったいないと考えています。日本にいても母国に貢献できることがあると、アジズさんは熱く語っていました。

小平市国際交流協会 令和3年度収支決算 (令和3年4月1日～令和4年3月31日まで)

※任意団体としての小平市国際交流協会の決算です。

● 収入の部

(単位：円)

科目	決算額
賛助会費収入	1,077,000
補助金収入(市補助金)	14,334,000
寄付金収入	76,500
事業収入	6,132,050
雑収入(預金利息等)	3,978
前期繰越収支差額	1,356,787
収入合計	22,980,315

● 支出の部

(単位：円)

科目	決算額
事業費	7,244,888
国際理解および国際親善の普及事業	5,601,521
地域における友好交流事業	118,397
地域や日本文化並びに外国都市や外国文化の紹介事業	0
国際交流情報の収集及び地域への情報提供事業	1,406,010
その他協会目的事業	118,960
管理費(管理運営費)	14,936,522
支出合計	22,181,410

編集後記

日本に来て今年で二年になりますが、まだ花火大会に行ったことがないです。その代わりに、友達から富士山に登りに行こうと誘われました。今年は日本の色んな所へ行き、見て回りたいですが、コロナ禍がまだ続いているので少々不安です。早く良くなるといいです。(W.Y.)



発行日 2022年9月1日
発行 一般社団法人
小平市国際交流協会
編集 機関紙グループ
〒187-0045
小平市学園西町2-12-22
学園西町地域センター 3階
TEL. 042-342-4488
FAX. 042-347-3003
Eメール: info@kifa-tokyo.jp

